

## マヤの暦は 2012年の終焉を 予言していたか

カトウン8アハウの時

『マヤ神話―チラム・バラムの予言―』  
(P・48) に次のような記述がある。

それより昔、カトウン八アハウの時があった。彼らの統治が現れたとき、八アハウが彼らのカトウンであった。このカトウンの間、首長たちの間に大いなる変事が起った。(……) 太陽の神官の予言<sup>ことば</sup>が告げたように、われわれの首長の数は増えた。つぎに彼らは旱魃を知った。鹿の蹄が燃え、海岸が燃え、不幸が海を支配するとき、予言<sup>ことば</sup>が告げていたこと、つまり大旱魃が始まった。天はそのように語った。彼らにそのように語った。そのとき太陽の面は<sup>おもしろ</sup>貪り食われ、太陽の面は昏くなり、その面は消えてしまった。(中略) 大地の首長たちが呼ばれた。アー・ケ―(射手)たちは彼らを狙い、彼らの血は流れた。彼らのためにカトウンが終わったとき(……)、彼らは恐怖を知った。(……)

チラム・バラムはカトウン2アハウの頃の人である。バラムはジャガー、チラムは神官：チラムのチは口のこと、神の言葉を預かって口にする人…を意味するという。預言の中のカトウン8アハウとはなんであらうか？それを知るにはマヤの暦を理解しなければならない。

## 複雑なマヤ暦のサイクル

マヤの暦は、暦元の日付からの経過日数を数える「長期暦」と、その毎日の日付に周期的に割り当てる「260日暦」「365日暦」を組み合わせたものである。

### 長期暦

現代の研究者が「長期暦」と呼ぶ暦は、暦元の日付からの経過日数をバクトウンからキンまでの5桁で表現する暦である。各桁の関係は次のようになっている。

キン		1 日
ウイナル		20 キン
トウン		18 ウイナル
カトウン		20 トウン
バクトウン		20 カトウン

トウン―ウイナルだけは十八進法でその他は二十進法である。トウンで一年を近似したのである。バクトウンより上位の桁も存在するが、実際には13バクトウンを大周期として繰り返し表記が行われている。

このため、暦元の長期暦は、

暦元の当日… 13・0・0・0・0  
暦元の翌日… 0・0・0・0・0・1  
と表記され、13バクトウン後再び大周期の終り…13・0・0・0・0  
になる。現代人が正午のことを十二時と呼ぶのに似ている。13バクトウンは1、872、000日(5125年余)である。

長期暦は紀元前一世紀頃に使い始められたもので、最古の実例はマヤ地域を少し西に外れたチャパ・デ・コルソ遺跡で見つかった。マヤ暦は実はマヤ地域で最初に考案された暦ではなかったのである。

### 260日暦(ツオルキン)

「260日暦」は1から13までの数と、  
図2にあるように、ハイシシユハイックVA  
アクバルVAカンVなど20種の日の名前を

組み合わせた260日周期の神聖暦で、おもに宗教的な目的で用いられる。

ある日が「1イミシュ」なら翌日は「2イック」、260日目「13アハウ」となり、一巡して「1イミシュ」に戻る。260日の周期の由来は推測するしかないが、  
一・天界の層の数十三と進法の基数二十の組み合わせ

二・人間の妊娠期間の日数

三・金星が明けの明星や宵の明星として見える期間の日数

などの説がある。火星の会合周期（780日）は260日の3倍である。

### 365日暦（ハアブ）

「365日暦」は、毎月20日からなる18か月と5日間のワヤツブでできる365日周期の太陽暦である。

月の名前は図3の通りである。

多くの場合、新年は「0ポープ」であり、その翌日は「1ポープ」、365日目「4ワヤツブ」となり、一巡して翌年の新年「0ポープ」を迎える。閏年はない。「0」は数字でなく着座を意味する文字を用いる。まれに「1ポープ」を新年とする場合もある。

新年の日の260日暦の日付を「年の担い手」と呼び、「年の担い手」でその年全体を指す。例えばある年の新年の日が「8カーバン」であればその年全体のことを「8カーバン」の年と呼ぶ。古代ローマで、毎日の最初の一時間を司る惑星をその日全体を指す七曜としたことが「日月火水木金土」の順序の起源となったことに似ている。

260日暦と365日暦の組み合わせをカレンダー・ラウンドと呼ぶ。これは260と365の最小公倍数である18、98

0日(約52年弱)で一巡する。まさに「還

ラウンド

カレンダー「暦」である。その倍の約104年弱には、

金星の会合周期(584日)×65 ≡ ツ  
オルキン(260日)×146 ≡ ハアブ  
(365日)×104 ≡ 37、96  
0日

という関係がある。

カレンダー・ラウンドは長期暦に先行して成立したもので、やはり最古の実例はマヤ地域を外れて西側に位置するモンテ・アルパンの紀元前五百年頃の遺跡で見つかっている。

### 短期暦

長期暦のカトウンは長期暦の下3桁が0の日に終るものとされ、その最終日の260日暦でカトウン全体を指す。二十世紀が西暦二千年に始まるのではなく、西暦二千年に終るのに似ている。例えば、(11・15)・0・0・13イミシュ9サックに始まり(11・16)・0・0・0 13アハウ8シユルに終るカトウンはカトウン13アハウである。現代の研究者が「短期暦」と呼んでいるのは、このようにカトウンの名前で暦日を示す方式の暦である。『チラム・バラムの予言』にあるカトウン8アハウはこの短期暦によっている。カトウンは、その日数が7、200日と20の倍数のため、必ずアハウの日に終る。また7、200日を13で割ると11余るので、カトウンの名前は2アハウ↓13アハウ↓11アハウ：↓2アハウのように進んで13カトウンで一巡する。チラム・バラムの生きたカトウン2アハウはカトウン13アハウのひとつ前のカトウンであった。短期暦は13カトウンで一巡してしまうので約256年間しか一意に表現できない。これが短期

暦と呼ばれる所以である。

### 天体暦

暦の観点で定義すると、マヤ古典期とはおよそ長期暦による日付のある碑文が建立されていた期間にあたる。マヤ古典期の碑文には長期暦に加えカレンダー・ラウンドや月の情報も記録されていた。特に六か月が単位となった太陰暦は9・12・15・0・0から65トウンの期間、その日付がマヤ全体でティカルの方式にほぼ統一されていたことがわかっている。当時の政治状況に思いをはせると興味深い。また、365日暦には閏年がないにも関わらず、天文学的知識としては、より正確な回帰年の長さを把握していた。カラクムル遺跡の西暦731年に相当する年の記録によれば、1年を365日としたことによる季節のずれを3845年あたり931日と見積もっている。これは1回帰年365・2421日(真値365・2422日)でありかなり精度は高い。さらにドレスデン絵文書によれば日食の周期を11、958日ないし11、960日と考えていたことがわかる。11、959日∥405朔望月∥34・5食年となる。1朔望月∥29・5284日(真値29・5306日)、1食年∥346・6377日(真値346・6201日)である。

### 暦元

マヤ古典期の碑文には西暦の日付はないので、カトゥン8アハウが具体的に何時かは長期暦の暦元を特定しなければわからない。スペイン人がやってきたとき、すでに長期暦は失われており、カトゥン以上の桁の値は不明だった。暦元の使用されたのは、カトゥン13アハウがユリウス暦1539年11月2日頃に終わったという情

報である。カトゥン13アハウの終りは260トウン(約256年)ごとに訪れるので、長期暦の暦元の日付は互いに260トウン隔たった一連の日付の何れかである。

長期暦の記録された碑文と同時代の試料の年代を放射性炭素含有率を使って測定し候補を絞りこむ。最後の決め手はマヤ古典期の碑文に長期暦とともに記された太陰暦である。絞り込んだ候補のうちグレゴリオ暦紀元前3114年8月11日ないし13日という暦元のみが合致した。後者を採用すると暦元とその13バクトウン周期の最終日は、

暦元 .. 13・0・0・0・0

4アハウ 8クムク

∥紀元前3114年8月13日

最終日.. 13・0・0・0・0

4アハウ 3カンキン

∥2012年12月23日

となる(日付はすべてグレゴリオ暦)。この暦元で計算した碑文の暦日とその西暦変換の実例を示す。

最初の長期暦(チャパ・デ・コルソ)

7・16・3・2・13

∥紀元前36年12月8日

マヤ最初の長期暦(ティカル)

8・12・14・8・15

∥292年7月8日

マヤ最後の長期暦(トニナ)

10・04・0・0・0

∥909年1月20日

これによりマヤ古典期の実年代が確定した。

### 2012年で終わらないマヤ暦

ふたたびカトゥン8アハウ

『マヤ神話―チラム・バラムの予言―』

に収録された「年代記」(P・208―21

9) からカトウン8アハウの出来事を抜き出すと、次のようなものがある。

西暦672―692年

チチェン・イツアの放棄、

チャカンブトゥンへの移住

西暦928―948年

チャカンブトゥンの放棄、

その後の放浪

西暦1441―1461年

マヤパンの放棄

西暦1697―1717年

最後のマヤパンの放棄

八杉佳穂『マヤ興亡』(P.26)によれば、西暦1440年頃のマヤパンの放棄は考古学的に確認されている。またタヤサルのイツア族の滅亡は西暦1697年3月でカトウン8アハウの始まるわずか四か月前であった。確かにマヤには周期的にものごとが繰り返すという世界観があり、カトウン8アハウは滅亡のカトウンとして意識されていたようである。

しかしながら、今回終るのはカトウン8アハウではなくカトウン4アハウであり、かつバクトウン4アハウでもある。それぞれの始まりは次のようになる。

カトウン4アハウ ..

12・19・0・0・1

|| 1993年4月8日

バクトウン4アハウ ..

12・0・0・0・1

|| 1618年9月21日

これらを特別な滅亡のカトウン、バクトウンとするという話は寡聞にして聞かない。

米誌サイエンス2012年5月11日号に、最古のマヤ天体暦が見つかったとの論文が発表された。論文によれば、グアテマラで見つかった西暦9世紀初頭の遺跡の壁

面に、天体の運行を計算するための表が書かれており、その表の周期で最大のものは17バクトウン0カトウン1トゥン3ウイナル0キン(2、448、420日)であるという。これは約6703年余にあたる。今回の大周期の終了で世界が終ると考えていたなら、13バクトウンより長い周期は使わないのではなからうか。

いわゆる「マヤの2012年人類滅亡の予言」は実はマヤには由来しないのである。

#### むすび

カトウン8アハウの滅亡が偶然の一致によるものか、13カトウン(約256年)周期でものごとが繰り返すという諦観に由来するものか判断するのは難しい。振り返って東洋の歴史を見ると、徳川幕府が265年、明が277年、清が266年である。

八杉佳穂『マヤ興亡』(が示唆するように、ひとつの政治組織が形成されて解体する過程には、何か文化の違いを超えた共通のメカニズムがあるのかもしれない。

#### 【参考文献】

- ル・クレジオ原訳・序望月芳郎訳『マヤ神話―チラム・バラムの予言―』新潮社1981年／八杉佳穂『マヤ興亡』福武書店1990年／八杉佳穂編『マヤ学を学ぶ人のために』世界思想社2004年／William A. Saturno, David Stuart, Anthony F. Aveni, Franco Rossi  
“ Ancient Maya Astronomical Tables from Xultun, Guatemala”  
Science, 11 May 2012 pp.714-717